

新たな時代。そして
大変な時代のスタート

令和の2年目がスタート。オリンピックの開催に国もメディアもそろって大騒ぎし、あたかも豊かな時代が始まるかのようなことを言っています。しかし、かかる費用は当初予算のおよそ4倍の3兆円です。これだけの税金をつぎ込んでその後に残るものは何でしょう。

今、必要とされるのは人生一〇〇年時代の福祉や医療、自然災害への備え、そして最も必要なのは教育への投資です。

今や日本は世界の中心ではなく、企業も、教育も世界に後れを取っています。日本の実質賃金はこの20年で10%以上低下しています。

アメリカやイギリス、そしてドイツ、フランス、オーストラリア、スウェーデン、デンマークは10%以上賃金が上がっています。

時代に対応しようと20年度から始まる小学校でのプログラミング授業や英語の授業を一律に実施することこそが問題なのです。

そんなことでは多様な価値観や発想力は付かないし、個性を伸ばすことにも繋がりません。

また、「教育改革」のは柱だった思考力・判断力・表現力を問う「大学入学共通テスト」の先送りなど日本の教育はもう迷走状態です。

これでは「GAF A」と呼ばれる企業が圧倒的な力を持つような時代を生きていくことは出来ません。

最近話題となった高山市の岐阜県立斐太高校は文武両道の進学校。この高校の女子のタイツの色に関する校則が議論を呼んだ。ページョのタイツに白ソックスがルールだという。生徒会執行部の生徒・保護者へのアンケートでは、黒色のタイツ導入に9割の賛同が得られた。それでも「合理的理由はない」と却下され、その後同窓生・保護者・生徒・教員それぞれ4名が出席して行われた会議でようやく認められた。これは日本教育で何が問題なのかを端的に表しています。

これからの教育に必要なことはAIやIT技術に身に付けることではなく、それらを使いこなすことのできる発想力なのです。勉強ができて、いい大学へ行って大企業に就職できれば安定が得られる時代

は終わったのです。今や企業には人を育てる余裕がないのです。社会に出るまでに学力だけではない、いろんなものを身に付けなければ通用しないのです。アフガニスタンで亡くなった中村哲さんのように、医療で人を助けるより環境を変えることの方が重要だという考え方は勉強にも当てはまります。学習の方法以前に、責任ある行動、挨拶をしつかりする、時間を守る、忘れ物をしない、何事も丁寧に自発的に取り組むことが結果に繋がるのです。

10年後、20年後の社会がどんな社会なのか想像はつきません。いずれにしても学力だけでは生きていけない時代になっていることは間違いないのです。



11月の道コン、学力テストの結果をもとに志望校へ向けての面談

12/7 作図特講



12/14 図形の計量特講

12/21 理科全範囲特講

1週間早く冬休みになった附属と高専生、午前中から勉強



普段の勉強が大事です

ちゃんとやらないと居残りも!

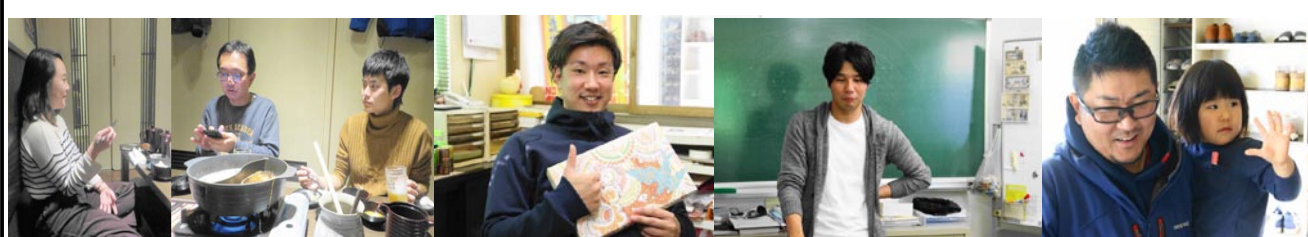
高校生たちの学習の様子



12/29 2019年、最後の授業が終わって恒例の掃除、中高生が手伝ってくれました。ありがとうございます!



5期生の田積さん、今日は差入れを持って来てくれました。22期生で高専から富士ゼロックス22期生で高専1年の一誠君と22期生21期生で高専から北電へ進んだ森君。年目の佐々木君。仕事は楽しい! で豊橋技術科学大学4年の兄、凌平君 会社の分社化で今後どうなるのか!



21期生の群馬女子大卒の増山さんと高専から17期生で歯科医を目指す大学57期生で高専からトステム 重要な塾のサポーターで6期生の株式会社キッツに就職した田村君と夕食 年の栗野君が2年振りに塾に! (現LIXIL)に就職の渋谷君 岩瀬君、今日は次女の楓ちゃんと。

31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水
											★新学期通常授業開始	休塾	冬期講座	冬期講座	冬期講座	冬期講座	冬期講座	成人の日休塾	冬期講座	◆3年生道コン(中1・2休塾)	◆1・2年生道コン(中3休塾)	冬期講座	冬期講座	冬期講座	冬期講座	冬期講座	年末・年始休	年末・年始休	年末・年始休	年末・年始休
あけましておめでとうございます												ストップ 過保護・過干渉!																		
公立高校入試まであと59日												センター試験まであと13日																		
一目に一度はR-GROUPの確認をお願いします。												1月の予定																		

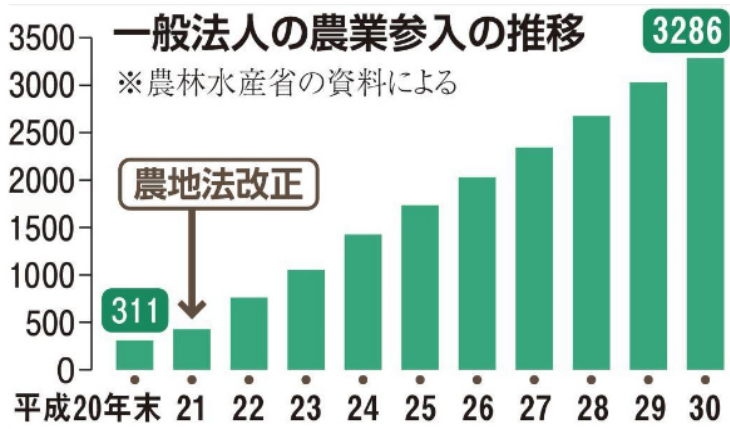
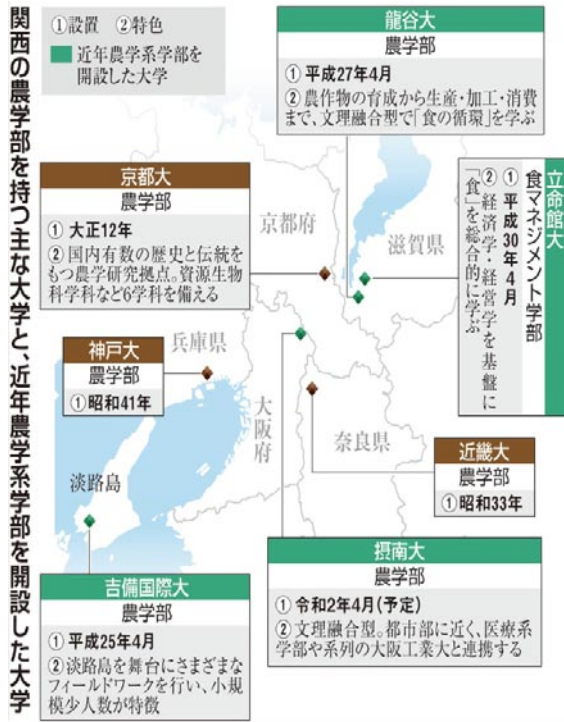
在籍する生徒の所属校
小学校 愛国・昭和
中学校 美原・共栄・景雲・鳥取・鳥取西・附属・富原
高校 湖陵・江南・北陽・明輝・高専

<進学するなら農学部 続々新設のワケ>

近年、大学で農学系学部の新設が相次いでいる。食への関心が高まり、食糧危機

などグローバルな課題が浮き彫りになる現代、企業の参入や最先端技術の活用などで農業のあり方が大きく変わろうとしている。農業の変革期を担う人材が広く求められる中、大学は農作物生産だけでなく農業ビジネス、情報科学にまで研究領域を広げて育成を急ぐ。(有年由貴子)

「高齢化社会の到来で、健康に対する社会の関心が高まっている。その根源に関わっているのは『食』と『農』。社会や多くの企業が農学系の人材を求めている」



こう話すのは、来年4月、大阪府内で唯一の農学部を開設する摂南大(大阪府寝屋川市)の荻田喜代一学長だ。関西で

は、京都大や神戸大などの国公立大のほか、近畿大(奈良キャンパス)など私立大もすでに農学部を抱える。少子化が進み、大学進学者数も減少傾向にある中、あえて“新規参入”に打って出る勝算はあるといい、現在、枚方キャンパス内に約1ヘクタールの農場やガラス温室5棟、ビニールハウス4棟などを整備中だ。

「農学部は『小さな総合大学』と呼ばれるくらい関わる分野が幅広い学部。もちろん田畑もあれば最先端研究もあり、生物、栄養、健康、農業経済も含まれる」と荻田学長は強調する。新学部も農作物生産や最先端バイオテクノロジーといった理系の学問だけでなく食育や流通・消費傾向など文系まで学べる「文理融合型」であることが特徴だ。農業だけでなく、食品業界など幅広い分野で活躍できる人材を育てることも意図している。

人気急騰

関西では近年、農業系学部の設立が相次いでいる。平成27年に龍谷大が私立大としては35年ぶりの農学部となる文理融合型の学部を新設。30年には立命館大が経済学・経営学をベースに「食」について学ぶ食マネジメント学部を開設した。文科省の統計によると、農学系の学科で学ぶ学生数は15年度では6万9447人だったのが30年には7万6930人と増加傾向にある。

農業系学部人気の理由の一つに、農業経営への企業参入が急増していることがあげられるという。

昨年度、農学部第一期生が卒業した龍谷大では、地元関西を中心に、食品関連のほか、金融や情報通信など多様な業界に卒業生を送り込んだ。同大の担当者は「実習などで農業の現場を知っている点などが評価されているようだ。企業における農業人材のニーズの高まりを感じる」と手応えを感じている。大学院修了が有利とされる大手食品メーカーなどの研究開発部門で就職した学部生もいたという。

耕作放棄地対策などのために、21年に農地法が改正され、法人が農業に参入しやすくなったことが背景にある。農林水産省によると、同年末に農業に参入する一般法人は427法人だったのが、30年末には3286法人と8倍近く増加している。参入先には東京、大阪などの大消費地に近い地域が目立ち、都道府県別では30年末現在、兵庫県が197法人と最多だ。

異業種からの参入も多く、IT会社が農作物を栽培、電気関連会社がオーブ

園を開設するなど、食をめぐる企業が新規ビジネスを模索している状況がうかが

広がる研究領域

社会に求められるのは多様な学びを身につけた人材だ。

近年の農学部では農家経営などに直結する食料生産分野だけでなく、環境や気象、ゲノム科学、情報科学、農業ビジネスなど研究領域が年々拡大。食の安全や気候変動に伴う食糧危機への懸念など、グローバルな課題の解決も目指す挑戦的な学問としても期待されている。

最近では人工知能(AI)やIoT(モノのインターネット)など、日本の農業の現場で革新をもたらしている最先端技術を活用した「スマート農業」も研究分野として関心を集めている。

また、大学は食や農に関心を寄せる地域の人々の学びの場としても期待される。龍谷大では、昨年4月に農学系大学院も開設。初年度の修士、博士課程の入学生15人全員が社会人で、京都の老舗料亭の料理人らが学んでいるという。摂南大も令和3年度入試から社会人入試を実施予定で、大学院を6年度に開設予定だ。

担い手不足や最先端技術の活用、現在の農業が直面する課題に対する取り組みは、新しい雇用やビジネスを生む可能性に満ちている。その突破口を開く新たな人材の育成が急がれている。

産経WEST 2019.12.24

私は10年近く前から、これからは農業、漁業、林業が重要になって来ると言うてきました。近年の世界の気候変動を見ると、地球環境の悪化により食料不足になるのは目に見えています。農業を学び農業をやるのではなく、漁業を学び漁師になるわけではありません。林業を学び地球の自然環境を考えることが必要なのです。

世界的な指導者は16歳のグレタ・トゥーンベリさんの言うように自国の経済発展のことしか考えていません。今、日本の食料自給率はわずか37%と危機的です。

農林水産の新たな時代の研究の道へ進むこともAIには出来ないことなのです。とにかく多くを経験し、多様な価値観、世界観を身につけることです。



<PISA調査 日本の15歳、読解力15位 3年前より大幅ダウン>

経済協力開発機構(OECD)は3日、世界79カ国・地域の15歳を対象とし

て2018年に実施した国際学習到達度調査(PISA)の結果を公表した。日本は読解力が前回(15年調査)の8位から15位と大きく後退したほか、数学的応用力が前回の5位から6位に、科学的応用力も2位から5位に順位を落とした。文部科学省では、読解力の記述式問題などで課題が浮き彫りになったとみて、学力向上策など検討する。

調査は3年に1度、義務教育修了段階の子供たちを対象に読解力と数学的・科学的応用力を測るもので、今回は男女約60万人が参加。日本からは全国約6100人の高校1年生がテストを受けた。

それによると、日本の読解力の平均点は504点で、OECD加盟国平均の487点は上回ったものの、前回の15年調査より12点、前々回の12年調査より34点低かった。

文科省によると、全体の約3割を占める自由記述式の問題で得点が伸び悩んだといい、正答率がOECD平均を2割近く下回った問題もあった。文科省担当者は「自分の考えを他者に伝えるよう、根拠を示して説明することに課題がある」と分析している。

また、インターネットのサイトから必要な情報を探し出すなど、ネット社会を反映したような問題でも日本の正答率はOECD平均より低かった。

一方、数学的応用力は527点(OECD平均489点)、科学的応用力は529点(同489点)。前回に比べ5~9点低かったが、文科省では「引き続き世界のトップレベルを維持している」としている。

国・地域別の平均点順位は、3分野とも中国の「北京・上海・江蘇・浙江」が1位、シンガポールが2位、マカオが3位で東アジア勢が上位を占めた。OECD加盟国の中では、読解力と科学的応用力はエストニア、数学的応用力は日本がトップだった。

日本の子どもたちの読解力の低さは今に始まったことではありません。10年以上前から分かっていたことです。2002年の「ゆとりの教育」の失敗です。また、子供たちの体力低下の問題もそうですが、メディアなどでは長時間のスマホやゲームが原因だと言っています。本当にそうなのでしょうか。30年以上塾をやり子供たちを見てきて、昔の子どもたちのとの大きな違い、その原因は「過保護」「過干渉」に他なりません。力を発揮できない子供たちのほとんどがそうなのです。子どものために止めましょうお父さん、お母さん!「過保護」「過干渉」。大人の問題なのです。